

Sun SPARC® Enterprise T5140 サーバ

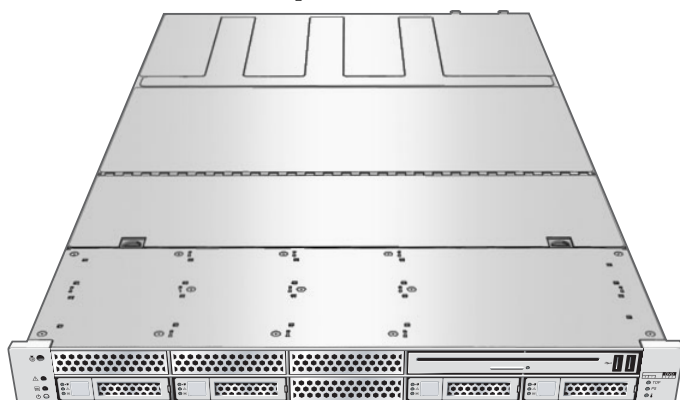
はじめにお読みください

(DC 入力電源動作モデル)

このマニュアルでは、はじめてサーバの電源を入れ、プリインストールされている Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) を使用して起動するための最小限の手順について説明します。

DC 入力電源を使用するサーバでは、特定の安全性仕様に従って電源コードを組み立て、接続する必要があります。この仕様は、『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』で説明されています。このマニュアルは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5140> で参照できます。

図 1 Sun SPARC Enterprise T5140 サーバ



出荷パッケージの内容

数量	内容
1	サーバ
2	RJ-45 Ethernet ケーブル
1	RJ-45/DB-25 アダプタ (クロス)
1	RJ-45/DB-9 アダプタ (クロス)
1	リストストラップ
2	DC 電源コネクタ

簡易設定手順

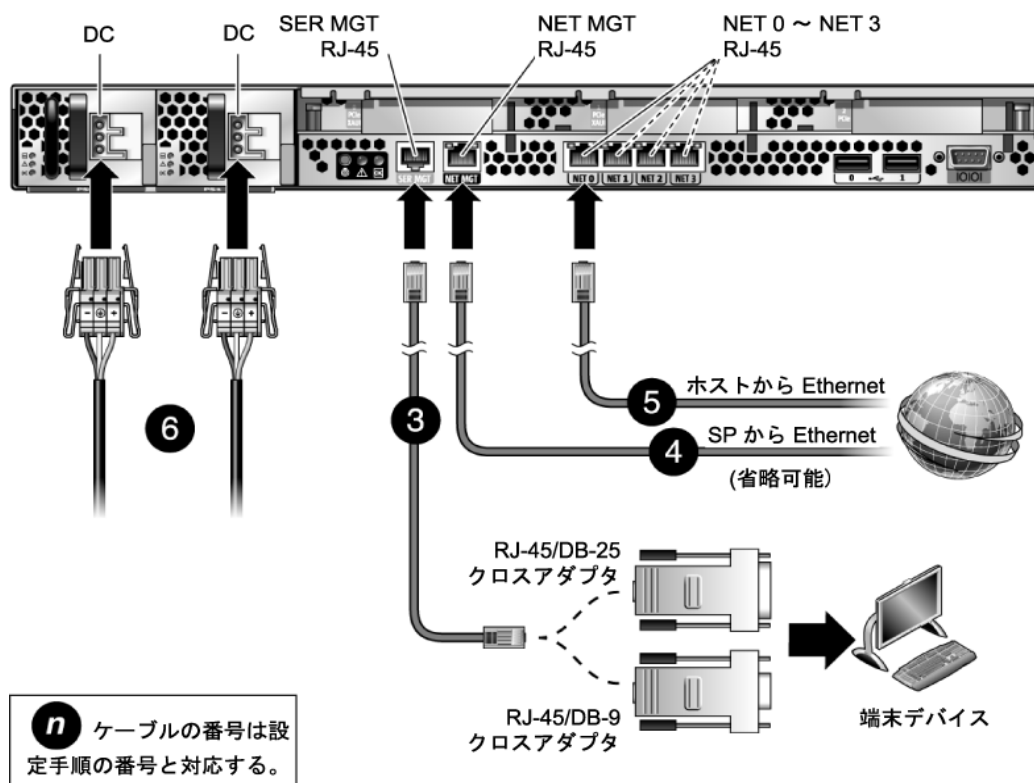
設置および構成の簡易手順は、次のとおりです。詳細は、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5140> にあるオンラインの製品ドキュメントセットを参照してください。

はじめてサーバを設定する前に、次の点を確認してください。

- **状況に最適な手順を選択する** — この簡易設定手順はどのようなネットワーク環境にも有効で、シリアルポートへの接続手段として端末デバイスを必要とします。ネットワーク環境で DHCP が動作している場合は、Ethernet 管理ポートを使用してシステムを構成することができます。DHCP 設定方式を利用する場合は、この手順ではなくオンラインの『インストールガイド』を参照してください。
- **十分な時間を確保する** — 設置に要する時間はさまざまですが、この設定手順をはじめて実行する場合は、すべての手順が完了するまで 45 ～ 75 分の所要時間を見込んでください。オプションのハードウェアおよびラック搭載キットを取り付ける場合には、さらに時間を要することもあります。
- **構成情報を収集する** — 構成時に、使用する環境に固有のタイムゾーンおよびネットワークパラメータの入力を求めるプロンプトが表示されます。必要となる情報のリストについては、[手順 9](#) を参照してください。
- **端末デバイスを入手する** — このラック搭載可能なサーバの構成は、組み込みのシリアルポートとネットワーク管理ポートを使用してサービスプロセッサ (SP) を介して行います。グラフィカルインタフェースおよび Sun のキーボードは使用しません。端末デバイスの詳細は、[手順 3](#) を参照してください。
- **この時点で電源を入れない** — このシステムには、メインホストサーバの構成および起動に使用するサービスプロセッサ (SP) が搭載されています。ホストサーバの構成と SP メッセージの表示を適切に行うには、このマニュアルで説明するように、SP とホストのネットワーク接続を行うまで、サーバに電源を入れないでください。

1. サーバの梱包を開き、出荷パッケージの内容がすべてそろっていることを確認します。
2. サーバを確認用の場所に置きます。
ラック搭載の手順については、レールキットに付属している手順書、サーバの保守ラベル、およびオンラインの『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』を参照してください。
3. サーバの SER MGT ポート (図 2) と端末デバイスとを、シリアルケーブルで接続します。
この接続で、サービスプロセッサ (SP) との最初の通信が行われます。
端末デバイスとは、端末エミュレーションソフトウェアが動作している端末、端末サーバ、またはノートパソコンのことです。このデバイスの通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットにします。ヌルモデム構成である必要があります。つまり、DTE 間の通信では送信信号と受信信号が反転 (クロス) します。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用すると、ヌルモデム構成を実現できます。

図 2 サーバの接続



4. (省略可能) サーバの Net MGT ポート (図 2) と、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
SP SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。
5. サーバの NET ポート (図 2) の 1 つと、サーバが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
6. DC 電源ケーブルを組み立てて、サーバの電源装置および別々の電源に接続します。
DC 電源ケーブルの組み立て手順は、『Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバインストールガイド』に記載されています。
注 - 動作に必要な電源接続は 1 つのみです。冗長性を実現するために、2 つの電源接続を使用してください。
電源が接続されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯します。数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。ホストは初期化されていないか、まだ電源が入っていません。

7. 端末デバイスで、パスワード `changeme` を使用して、`root` として SP にログインします。

```
SUNSP00144FAC732F login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、SP プロンプト (`->`) が表示されます。この時点で、Integrated Lights Out Manager インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。

パスワードの変更方法、SP ネットワークパラメータの設定方法など、SP に関するその他の情報はオンラインドキュメントセットで参照できます。

8. サーバの電源を入れ、シリアル端末デバイスに表示するようにホスト出力をリダイレクトします。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
-> start /SP/console
Are you sure you want to start /SP/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
. . .
```

SP コンソールを起動したあと、サーバの初期化が完了するまでに約 20 分かかります。

9. プロンプトが表示されたら、画面上の手順に従って次の構成情報を入力します。

構成の確認を求めるプロンプトが数回表示されるため、そこで確定と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Solaris OS を実行しているときに変更することができます。

パラメータ	説明
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。
Locale	表示されたロケールの一覧から番号を選択します。
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。
Network?	「Yes」を選択します。
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。構成するネットワークインタフェースが不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Host Name	サーバのホスト名を入力します。
IP Address	この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。
Subnet?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
Subnet Netmask	Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。
IPv6?	IPv6 を使用するかどうかを指定します。IPv6 を使用するかどうか不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。
Security Policy	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。セキュリティが不明である場合は、「No」を選択します。
Confirm	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、処理を続行します。
Name Service	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。 注 - 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
NFSv4 Domain Name	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。ドメイン名構成が不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。
Time Zone (Continent)	該当する大陸を選択します。
Time Zone (Country or Region)	該当する国または地域を選択します。
Time Zone	タイムゾーンを選択します。
Date and Time	デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。
root Password	root のパスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバの Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。SP のパスワードではありません。

構成メニューを完了するとサーバが再起動され、Solaris ログインプロンプトが表示されます。

10. サーバにログインし、機能を調査します。

システムの機能を確認するために使用できるコマンドは多数あります。そのうちの一部を次に示します。

- `showrev` — ホスト名およびシステムアーキテクチャー情報を表示します。このコマンドに `-a` オプションを指定すると、インストールされているパッチを確認できます。
 - `psrinfo` — ホストのプロセッサおよびコアの番号と状態に関する情報を表示します。
- 詳細は、Solaris OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。

その他の情報の参照先

この製品に関するその他の情報は、次の URL から参照、印刷、またはダウンロードできます。

- Sun SPARC Enterprise T5140 サーバドキュメントセット (プロダクトノートなどの重要なドキュメントを含む)
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5140>
- Sun の各種ドキュメント (ローカライズ版を含む)
<http://www.sun.com/documentation>
- プリインストールされている Solaris™ OS に関する情報
<http://www.sun.com/software/preinstall>
- CoolThreads™ — 概要および「Cool Tools」へのアクセス
<http://www.sun.com/servers/coolthreads/tnb/index.jsp>
- CoolThreads — CMT のチューニングおよびリソース
<http://www.sun.com/servers/coolthreads/tnb/t2.jsp>

Sun の技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun SPARC Enterprise T5140 サーバはじめにお読みください (DC 入力電源動作モデル)』、Part No. 820-6337-10

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. 富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。
原典 : Sun SPARC Enterprise T5140 Server Getting Started Guide (For Models That Run on DC Input Power) (Part No: 820-5840-10v1)



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-6337-10, Rev. A
2008 年 10 月